

大学生からのメッセージ

「韓国はどんな国だろうか」

山口大学 国際総合科学部 2年 野村 涼

私は、この夏から1年間韓国へ留学に行く。最近では空前の韓国ブームで、友達に「韓国へ留学に行く」と言うと、2人に1人が「K-pop好きだっけ？」と聞いてくるが、そういうわけではなく、韓国料理とハングルに興味がある。山口県は日本の中でも特に韓国に近く、アクセスもそれなりに良いので、長期休みにショッピングや食べ歩きをしに韓国へ旅行に行く学生も少なくない。ちなみに韓国へ行くのは今回が初めてで、留学先は、ソウルから南に約200kmの全州(チョンジュ)という地方都市だ。伝統的な韓国家屋やビビンパなどの郷土料理が有名で、歴史的な遺跡も数多く残る、韓国文化の中心地とも言えるまちだそう。InstagramやYouTubeで検索すれば、有名な観光スポットやおすすめグルメなどが出てくるだろうが、私はあえて検索しない。情報をもとに、自分の中で「全州」のイメージが作り上げられてしまうのが嫌だからだ。

去年の夏休み、私は1か月間フィリピンのセブ島へ語学研修に行った。初めての海外ということもあり、渡航前には、観光スポットやグルメ、お土産などをいろいろリサーチした。セブ島といえば、きれいなビーチのイメージが強く、海に入る準備も万端で向かった。しかし実際に行ってみると、語学学校はビーチから離れた町中にあり、治安もあまり良くなかったため、外出はほとんどできなかった。現地のグルメを楽しむ予定もあったが、外に出づらいうことや、食中毒の心配もあって、期待していたほどには堪能できなかった。

それでも、そこで過ごした1か月は、予想もしていなかったほどかけがえのないものになった。国や年代を超えた出会い、金曜日を心待ちにする文化、寮の絶品ヤンニョムチキン、独特な匂いが漂うスーパーの生鮮売り場、3日に1回故障するシャワー、用心していたのにぼったくられたタクシー代など、カルチャーショックも含め、さまざまなことを経験した。

セブ島は、渡航前に思い描いていた場所とは全く違っていたし、やりたいと思っていたことの半分もできたかどうか分からない。でも、実際に行ってみればそんなことはどうでもよくなった。まちの空気感から、寮の食堂で毎朝食べていたパンケーキの味まで、全てが新鮮で興味深いものだった。

ネットにあふれている情報や投稿は、あくまで第三者の一側面にすぎない。時に、その土地や投稿者の経験がとてもきらきらしたものに見えるかもしれない。でも、大切なのは「自分がどう感じるか」だろう。実際にその場所へ行き、いろいろな人と交わり、自分だけの経験を通して初めて、今いる場所の本当のイメージが形づくられる。

事前の情報収集はもちろん大切だ。地理や文化、治安について知っておくことで、安心して行動できる。しかし、先入観やイメージは少ないほうがいい。どんな人と出会い、どんな経験をし、何が待ち受けているかは、行ってみなければ分からない。結局のところ、その時自分が感じたことがすべてだ。

と言いながらも、韓国や全州に関する情報はたくさん調べた。しかし、それらの情報から、これからの1年が自分にとってどのような日々になるかを知ることはできない。韓国はどんな国なのだろうか。その答えは、行ってみて、自分で感じてみて、出すことにする。

行こうよ！水土里の旅！

□ 犬山頭首工(愛知県犬山市)



犬山頭首工は、一級河川木曽川の下流(河口から約57km地点)に、宮田用水、羽島用水、木津(こつつ)用水を合口することを目的として、昭和32年から昭和37年に築造されました。その後幾多の補修や部分改修などの再整備が実施され、今なお濃尾平野の東部の約9,300haの農業地帯(濃尾用水地区)に農業用水を供給しています。濃尾用水地区は、名古屋に隣接しており、犬山頭首工からの農業用水は、都市近郊農業の維持発展に寄与しています。



犬山頭首工の形式は、木曽川を川幅420mにわたって締め切った、右岸側108mに固定堰を有する複合堰です。幅30.0mの制水門×6門、土砂吐制水門、舟通閘門、魚道調節水門の合計9つの可動堰により水位を調整しています。

頭首工の管理橋は、ライン大橋と呼ばれ、岐阜県と愛知県を結ぶ生活用道路として利用されていることも特徴の一つです。また、魚道は兩岸に設けられ、アイスハーバー式魚道(左岸)、待避所付き舟通し型(右岸)(左写真)で、鮎をはじめ多くの魚類の往来が確認され、頭首工の周辺には、オオサンショウウオの生息も確認されており、定期的に環境モニタリング調査が実施されています。

□ 国宝 犬山城



室町時代に織田家により築城された犬山城。その天守は、日本で最も古い天守です。木曽川を眼下に見下ろす天守からは、犬山頭首工も一望できます。

□ 伝統漁法 鵜飼



鵜飼は隣の長良川が有名ですが、木曽川の鵜飼も江戸時代から続いています。観光船は、納涼におすすめです。

農業土木技術ープロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術ープロの仕事」。最新技術により気候変動が用水計画に与える影響を評価した事例について紹介します。

1. 気候予測データについて

気候変動の影響で降水パターンが変化しており(図1)、農業分野でもその対応が重要になっています。この変化を捉えるため過去と将来の気候をシミュレーションした気候予測データ『d4PDF』が活用されています(図2)。d4PDFを利用することで将来の水資源量を表現し、より効果的な用水計画の立案につなげることができます。

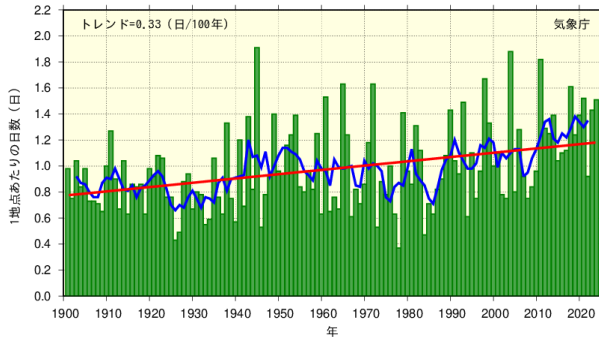


図1 日降水量100 mm以上の年間日数の経年変化
(1901~2024年)

出典:文科省及び気象庁「日本の気候変動2025」

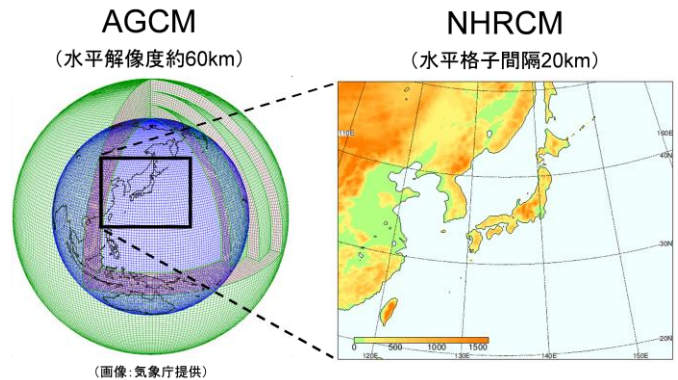


図2 d4PDFで用いる全球実験と領域実験
出典:<https://www.miroc-gcm.jp/d4PDF/>

2. 変化する水文・気象環境

気候変動により気温の上昇や降雨の変化、さらに蒸発散量の増加が懸念されており、モデル地区における農業用水に関する水文・気象データの変化を把握しました。

特に河川の流況に注目すると、気候変動の影響で融雪の時期が早まり、かんがい期の河川流量が減少する傾向が見られました(図3)。

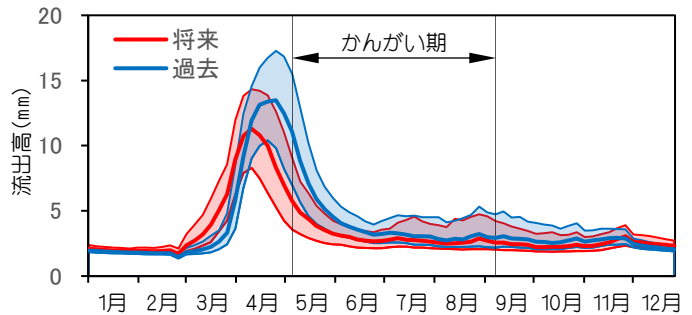


図3 気候変動で生じるダム流入量の変化
(着色部は25%範囲を示す)

3. 増加するダム容量

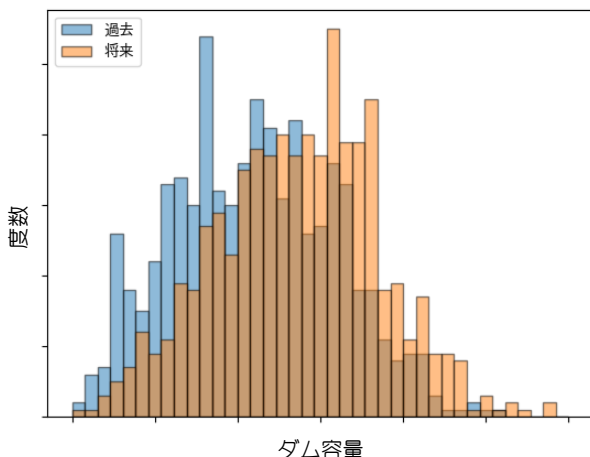


図4 気候変動で生じるダム容量の変化

気候予測データを用いて過去と将来のダム容量を計算したところ、将来に向けてダム容量が増加する傾向がみられました(図4)。この結果を踏まえ、今後は適切な適応策の検討が求められます。

このように私たちは大学などの専門機関と連携し、最新技術を活用しながら、複雑化する社会課題の解決に取り組んでいます！

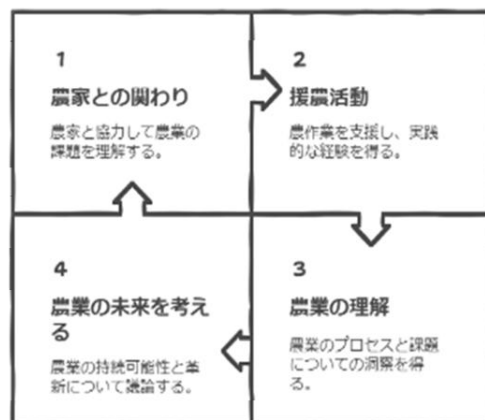
本業務では文部科学省による複数の学術研究プログラム(「創生」、「統合」、SI-CAT、DIAS) 間連携および地球シミュレータにより作成された d4PDF を使用した。

「農業農村を応援する大学生サークル」の活動紹介

■「千葉大学援農お宝発掘隊」の活動紹介

千葉大学援農お宝発掘隊は千葉県の農家さんへの援農活動・大学内の圃場作業を通じて農業の理解を深め、今後の農業のあり方を考えています。先日千葉県柏の道の駅しょうなん様と農家の高齢化により農作物の出荷量の低下、農家のために大学生や地域住民の方々に何かできないのかをテーマにミーティングをしました。

千葉大学援農活動サイクル



■農家さんへの援農活動 🧑‍🌾 🚜

4年以上付き合いをさせていただいている農家さんのもとに援農活動をしています。写真では梅の収穫をしています！脚立でも届きにくい所に梅がついており、木登りしながら収穫しています。収穫した梅は梅干しや梅酒などにしました。梅以外にはジャガイモやブルーベリーの作業も行いました。写真に写っている学生は3年生以上で、低学年の参加率が悪いことが課題です。



■大学の圃場での活動 🌱

大学の圃場ではトマト・サツマイモ・人参・ジャガイモ・かぼちゃ・ネギ・へちま・レタスなどを栽培しています。かぼちゃの支柱を立てるために四苦八苦している様子です。援農活動をしている農家さんからトマトの苗やサツマイモの苗をいただいて栽培にチャレンジしています。



「農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

☐日本グラウンドワーク協会公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

[発行・お問合せ先等] 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324

Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。